

平成30年度 学校関係者評価表

県立清武せいりゅう支援学校

◇下記の各項目に対する評価を評価欄に記入し、コメントを書き込んでください。
 A 良い B 概ねできている C 努力が必要 D 改善すべきである

1 学校運営		評価	コメント
①	学校経営方針や教育目標・努力事項を踏まえた取組ができているか。	B	
②	諸会議が検討、確認、共通理解の場となるよう努めたか。(職員会議、運営委員会、各種委員会など)	B	
③	職員間の連携を密にして組織的・協力的に取り組んだか。	B	
④	災害や緊急時に対応する危機管理体制を整えているか。	A	
2 学部関連		評価	コメント
①	学部経営の目標や努力事項を踏まえた実践に努めているか。	B	
②	学部の児童生徒の実態に応じた計画的で適切な学習活動やグループ学習、行事等を学部で取り組んでいるか。	A	
③	学部会が必要な事項の検討、確認、共通理解や意見交換の場となるよう努めているか。	A	
④	児童生徒の障がいの状態や発達段階等の共通理解を図って協力体制はできているか。	A	
3 校務部関連		評価	コメント
①	校務分掌部等の目標や努力事項を踏まえた実践に努めているか。	B	
②	児童生徒の実態に応じた計画的で適切な教育活動等を校務部で取り組んでいるか。	B	
③	校務部会が必要な事項の検討、確認、共通理解や意見交換の場となるよう努めているか。	A	
4 学級関連の教育活動や指導・支援		評価	コメント
①	学級の児童生徒の実態に応じた計画的できめの細かい学習指導が実施できているか。	B	
②	保護者と情報交換や共通理解を図って、連携・協力に努めたか。	A	
③	児童生徒の実態に基づいて個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成、共有し、指導に活かしているか。	B	
④	児童生徒の人権を尊重した教育活動に努めているか。	A	
⑤	児童生徒の実態に応じた教科・領域の授業の計画や実践ができたか。	B	
⑥	学習効果を上げるための教材・教具の工夫と活用に取り組んでいるか。	B	
⑦	児童生徒の実態に応じて将来を見通した生活面の指導・支援を行っているか。	B	
⑧	自立活動は、実態把握を基に、個に応じた適切な指導がなされているか。	A	
5 保健・安全面		評価	コメント
①	児童生徒の健康状況について、保護者やセンター及び保健室との連携を図ったか。	A	
②	清潔面、衛生面及び安全面に配慮して日々の指導を行うことができたか。	A	
③	食事や水分補給、トイレ支援等は、安全にできたか。	A	
④	児童生徒の健康状態を把握して、健康管理や状態維持に努めたか。	A	
⑤	医療的ケアは看護師と連携して安全安心に実施されているか。	A	
⑥	ヒヤリハット事例について全職員で情報を共有し、再発防止や重大事故の予防に活かしているか。	A	
⑦	施設・設備や教材・教具等の安全点検や安全な活用がなされているか。	B	
⑧	緊急対応等のマニュアルを理解し、緊急時や危機管理に備えているか。	A	
⑨	『防災対策プラン』の整備と充実に取り組んで、活用に努めたか。	B	
⑩	安全面を十分考慮して、学習及び行事の実践がなされているか。	A	

6 進路指導		評価	コメント
①	児童生徒の自己理解・職業理解を図るための計画的な進路学習に取り組んでいるか。	C	
②	児童生徒の進路について、保護者や関係機関との連携をとっているか。	B	
③	進路に関する情報収集や提供を行っているか。	C	
7 職員研修		評価	コメント
①	児童生徒の実態を踏まえた効果的な指導法等の研究や改善に努めたか	B	
②	校内研究において、研究主題に沿ったグループ研究を深化させているか。	C	
③	専門性向上研修等の各種研修を指導や授業実践に活かすことができたか。	B	
④	ICT 機器や情報機器を活用した指導に取り組んでいるか。	C	
⑤	自らの専門性を高めるために、教育研修センターや外部の各種研修に参加しているか。	D	
8 交流及び共同学習		評価	コメント
①	学校間交流は、相手校との共通理解の下、効果的に実施できているか。	B	
②	居住地校交流は、保護者及び相手校との共通理解の下、効果的に実施できているか。	B	
9 関係機関との連携		評価	コメント
①	こども療育センターと連携した指導・支援に努めたか。	B	
②	福祉サービス事業所等との連携に努めたか。	B	
③	学校ホームページの更新や活用に努めたか。	C	
④	関係機関（教育、福祉、医療、行政 等）との連携はとれているか。	B	

【学校全体のコメント・メッセージ】

評価基準は「学校評価・職員アンケート結果」から、「十分できている」が15%以上→A：良い、「十分できている」が15%未満かつ「やや不十分」が15%未満→B：概ねできている、「やや不十分（A、Bと評価されたものを除く）」が15%以上→C：努力が必要、「やや不十分」が30%以上→D：改善すべきである、です。

まず、職員アンケートの回答方法について、これまでは「職員から見た学校」を評価していたが、今回から「職員自身ができているか」を評価するよう変更されました。これにより、職員が自己の取り組みを振り返る機会になり、職員アンケートを実施すること自体が今後の改善につながると考えられます。そのため、今回の回答方法の変更は適当と考えます。

次に、本評価表の大項目1～9を概観すると、相対的にAが多く見受けられるのは「5. 保健・安全面」です。日々の教育活動の基盤となる児童生徒の健康、衛生、緊急対応等に関する項目がA評価となっていることはとても優れた点と言えます。このことについて、児童生徒の保護者からも「先生から保護者に児童生徒の体調等を細かく連絡していただき、フォロー体制が手厚い。先生方の対応がとても細やかで、いろいろな情報を教えてください。とても安心でき、高等部卒業後もずっと通い続けたい環境です」という意見がありました。職員の皆様の取り組みが保護者の方々にもきちんと伝わっており、両者間の風通しの良いコミュニケーションが構築されていることが推察されます。併せて、人工呼吸器を使用する生徒の保護者待機の解除に向けた試行を開始しており、当該生徒とその保護者を一体的に捉えた取り組みは本県内外のモデルとなると思われます。一方、施設・設備面に関することですが、保護者から「トイレの老朽化による衛生上の心配」が挙げられました。

最後に、本評価表の大項目1～9を概観すると、相対的にCが多く見受けられるのが「6. 進路指導」、「7. 職員研修」です。「6. 進路指導」については、保護者から「多様な人生選択が求められる中、我が子についてはその選択肢が狭いと感じる。学校を挙げて、卒業後の進路選択が幅広くなるよう情報収集、情報提供をしていただきたい」という意見がありました。これに関連し、居住地校交流のより一層の充実について、保護者から意見がありました。年に数回の実施ではなく、より日常的、より当たり前のこととなってほしいという願いがあります。「7. 職員研修」については、「自らの専門性を高めるために、教育研修センターや外部の各種研修に参加しているか」が唯一のDとなっています。働き方改革の影響もあり、学校内での研修の充実が求められるところです。